

- 問1 九州地方の南東部に位置し、ピーマンやキュウリなどの生産が盛んな宮崎県では、出荷時期を早める「促成栽培」が行われています。このような工夫を凝らした農業が行われる主な目的として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|---|
| 1. ダムや水路などのかんがい施設を効率的に利用し、一度に大量の野菜を収穫するため | 2. 大消費地である東京や大阪に近いため、輸送コストを抑えて新鮮なうちに届けるため | 3. 他の産地の出荷が少ない時期に市場へ供給することで、高い販売価格を得るため | 4. 夏の極端な高温や乾燥による被害を避けるため、収穫を春までに終わらせるため |
|---|---|---|---|
- 問2 日本列島周辺の海底地形のうち、九州地方の西側にある東シナ海の特徴を説明した文として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 岡山県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|---|--|
| 1. 海岸沿いに砂が堆積してできた砂州が発達し、巨大なラグーンを形成している。 | 2. 水深6000mを超える細長い溝状の地形が続き、プレートの沈み込み帯となっている。 | 3. 大陸から続く水深200m程度までの平坦な海底が広がっており、好漁場となっている。 | 4. 周囲を急峻な斜面に囲まれた、非常に深い盆地状の地形が中心となっている。 |
|---|---|---|--|
- 問3 熊本県の自然環境について述べた文として、地形と河川の特徴が正しく組み合わせられているものはどれですか。 (2025年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|--------------------------------------|---|--|--|
| 1. 南部の盆地を通り西へ流れる球磨川の下流域に、平野が形成されている。 | 2. シラス台地を流れる川内川の流域において、広大な畑作地帯が形成されている。 | 3. 北部の筑紫平野を流れる筑後川の周辺に、大規模なクリークが発達している。 | 4. 東部の険しい山地を流れる大淀川の下流に、広大な宮崎平野が広がっている。 |
|--------------------------------------|---|--|--|
- 問4 九州地方の周辺を流れる海流が、地域の生活や気候に与える影響について述べた文として、正しいものを選びなさい。 (2023年 佐賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|---|---|
| 1. 赤道付近から北上してくる黒潮や対馬海流が暖かい空気を供給するため、冬でも比較的温暖な気候となる。 | 2. 北からのリマン海流が九州の日本海側に冷たい水運ぶため、冬の九州北部は北海道と同じくらい寒冷になる。 | 3. 日本海を南下する対馬海流が、九州地方に乾燥した冷たい空気を運んでくるため、冬は降水量が非常に少なくなる。 | 4. 太平洋側を流れる親潮の影響で霧が発生しやすくなり、夏でも気温があまり上がらない冷涼な気候となる。 |
|---|--|---|---|
- 問5 九州地方の平野とその特徴に関する記述として、最も適切なものはどれか。 (2023年 青森県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|--|--|-------------------------------------|
| 1. 筑紫平野は、九州南部に位置し、シラス台地でのサツマイモ栽培が中心である。 | 2. 宮崎平野は、九州北部に位置し、筑後川の水を利用した米作りが盛んである。 | 3. 熊本平野は、九州南部に位置し、冬の温暖な気候を利用した野菜の促成栽培が盛んである。 | 4. 筑紫平野は、九州北部に位置し、広大な水田が広がる稲作地帯である。 |
|---|--|--|-------------------------------------|
- 問6 宮崎県では、沖合を流れる黒潮（日本海流）の影響を受けた温暖な気候を利用して、ピーマンなどの野菜栽培が盛んに行われています。このような農業の形態として最も適切な名称はどれですか。 (2021年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|-------|-------|---------|---------|
| 1. 稲作 | 2. 酪農 | 3. 園芸農業 | 4. 近郊農業 |
|-------|-------|---------|---------|
- 問7 鹿児島県の桜島周辺では、噴火によって噴出された火山灰や火砕流が積み重なって形成された、水はけの良い台地が広がっています。この地形の名称と、その土地利用の特徴について説明したものの組み合わせとして正しいものを選びなさい。 (2023年 茨城県公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---------------------------------------|---|---|
| 1. 干拓地と呼ばれ、堤防で囲うことで海を陸地化し、広大な農地として利用されている | 2. シラス台地と呼ばれ、保水力が非常に高いため大規模な稲作が行われている | 3. シラス台地と呼ばれ、稲作には不向きだがサツマイモなどの畑作が行われている | 4. 扇状地と呼ばれ、果樹園として利用されるほか、住宅地としても開発されている |
|---|---------------------------------------|---|---|
- 問8 九州地方南部の鹿児島県などに広く分布する、過去の巨大火山による噴火で発生した火砕流などの堆積物が積み重なって形成された台地を何といいますか。 (2020年 静岡県公立入試 類似)
- | | | | |
|--------|---------|--------|----------|
| 1. 三角州 | 2. カルデラ | 3. 扇状地 | 4. シラス台地 |
|--------|---------|--------|----------|
- 問9 日本の茶の生産量に関する統計において、1位の静岡県（約38%）に次いで、全国の約3割（約31%）を占める鹿児島県では、ある特殊な地形を利用して茶の栽培が盛んに行われています。この地形の名称と農業上の特徴の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2020年 広島県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|---|--|
| 1. カルデラと呼ばれ、火山が噴火してくぼんだ地形を利用して大規模な稲作が行われている。 | 2. シラス台地と呼ばれ、水はけが良い性質を利用して茶やサツマイモなどの畑作が行われている。 | 3. 扇状地と呼ばれ、川が山地から平地に出る場所に堆積した土砂を利用して果樹園が作られている。 | 4. 三角州と呼ばれ、河口付近に砂泥が積もった平坦な土地を利用して米の二期作が行われている。 |
|--|--|---|--|
- 問10 鹿児島市付近に広がる、標高約40メートルの平坦な台地について述べた次の文を読み、空欄にあてはまる内容の組み合わせとして最も適切なものを選択肢から選びなさい。
「この地域は、かつての火山活動による噴出物が積み重なってできたシラス台地と呼ばれ、水が地下にしみ込みやすく（①）には適さないという特徴がある。そのため、かつては厳しい生活環境であったが、現在ではその土地の特性を活かして（②）が盛んに行われている。」 (2017年 滋賀県公立入試 類似)
- | | | | |
|---------------------------|-------------------------|----------------------------|----------------------------|
| 1. ①畜産業
②ブドウやモモなどの果樹栽培 | 2. ①畑作
②豊かな水源を活かした稲作 | 3. ①稲作（水田）
②畑作や茶の栽培、畜産業 | 4. ①果樹栽培
②稲作を中心とした大規模農業 |
|---------------------------|-------------------------|----------------------------|----------------------------|
- 問11 九州地方の種子島において、宇宙センターの建設やサトウキビの生産といった産業が発達した要因となる、この島の地形的・気候的な背景として最も適切な説明はどれですか。 (2019年 東京都公立入試 類似)
- | | | | |
|---|---|--|---|
| 1. 島全体に平坦な丘陵が広がっており、大規模な施設の建設や農地の確保が比較容易であったため。 | 2. リアス海岸が発達しており、大型船によるロケット機材の搬入や、寒冷な気候を活かした漁業が盛んであったため。 | 3. 銘柄米の生産に適した広大な平野と、一年を通じて冷涼な気候が維持されていたため。 | 4. 標高の高い険しい山岳地帯が島の中央にそびえ、宇宙観測に適した気流の安定した環境があったため。 |
|---|---|--|---|
- 問12 宮崎県ではピーマンの生産が、沖縄県ではサトウキビの生産が盛んである。また両県ともにマンゴーの生産が全国的に有名である。これら両県に共通する気候的な特徴を活かした農業の説明として、最も適切なものはどれか。 (2014年 沖縄県公立入試 類似)
- | | | | |
|--|--|--|---|
| 1. 冬の積雪が多い気候を活かし、春先の豊富な雪解け水を利用して大規模な稲作を行うとともに、冬の間は出稼ぎや工芸品制作を行っている。 | 2. 大都市に近い立地を活かして、鮮度が重要な野菜を生産し、輸送費を抑えて短時間で消費地へ届ける近郊農業に注力している。 | 3. 高冷地の涼しい気候を活かし、夏から秋にかけてキャベツやレタスなどの高原野菜を栽培し、出荷時期を他の地域とずらしている。 | 4. 温暖な気候を活かし、ビニールハウスなどを利用して成長を早めて出荷時期をずらす促成栽培や、熱帯・亜熱帯の作物の栽培が行われている。 |
|--|--|--|---|